

ケース1 学習場面で、児童生徒が立てた「問い」を評価する

教師の発問

1	教師の発問	仮説を確かめるためには、どのようなことがわかる資料があればよいか。
	評価基準	A 仮説を確かめるために適切な資料について、具体的に述べられている。
		B 仮説を確かめるために適切な資料を指摘している
		C 仮説を確かめるためには適切ではない資料を指摘している。
2	教師の発問	「単元を貫く問い」に答えるために、次時はどのような「問い」を立てればよいか。
	評価基準	A 次時の「問い」関わる適切な「問い」を立てている
		B 本時の「問い」にかかわる「問い」を立てている。
		C 本時・次時とは関わらない「問い」を立てている。

ケース2 「振り返り」場面で、児童生徒が書いた「記述」を評価する

	質問紙	単元の学習を通して、新たにどのような疑問や考えが生まれましたか？ 今後も考え続けたいことは何ですか。今後の生活に活かしたいことは何ですか。
評価の視点	評価規準	「単元を貫く問い」をモデルにして、思考力・判断力・表現力を生かして、新たな問い、考え続けたい問題、自分に活かしたい事象を発案できたか。
学びの転移	評価基準	A 「もし～なら」という仮定を用いて、未来予想や推論を行う疑問と記述
学びの転移		A 「よりよい」解決策・改善策や別のしくみ・システムの代案について具体的に記述。
学びの転移		A 「どうしたらよいか」「どの解決策がよりよいか」など社的事象の解決策にかかわる疑問と記述
知識の深化		A 「なぜ、どうして」など社会的事象の因果関係にかかわる疑問の記述
知識の構造化		B 「どのように」「どのような」など社的事象の経過や構造・特色にかかわる疑問や記述
知識の豊富化		C 「いつ」「どこで」「だれが」「何を」など社会的事象の事実にかかわる疑問や記述